



歴史・文化の匂いを残す“かつやまロマン”

勝山市の玄関口

「勝山駅前広場」がまもなく完成!

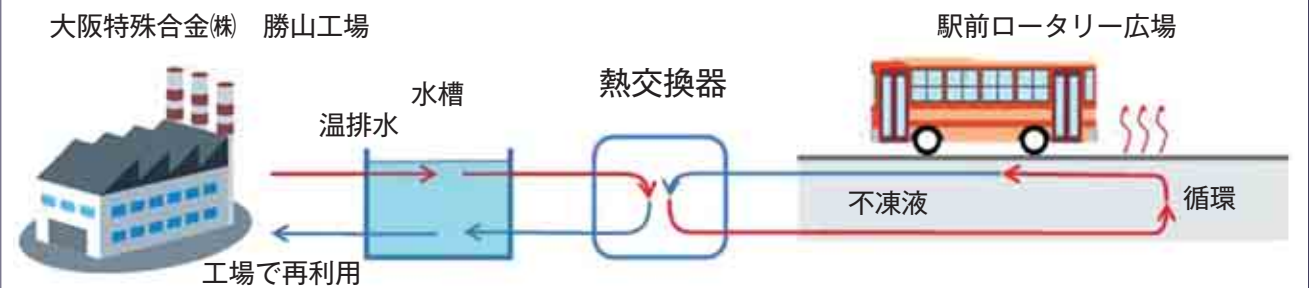
今月中に、県道勝山停車場線の駅前ロータリー整備と踏切改良工事、駅前広場のテキ6動態展示施設と駅西公園の整備が完了します。

※駅前ロータリーの供用開始は11月24日(木)午前7時から

整備後のイメージ

駅前ロータリー広場の無散水融雪装置

勝山駅近くの工場からの温排水を利用して、駅前のロータリー広場や歩道の融雪を行います。



工事の様子



今年1月の融雪の様子(左はロータリー、右は歩道)

日本最古級の電気機関車 「テキ6(テキ6形6号)」の動態展示

テキ6は、大正9年(1920年)に京福の前身である「京都電灯福井支社越前電気鉄道部」によって製造されました。

当時から奥越地方にも多くの貨車や客車を引き、地域の発展に貢献しました。



◆勝山駅前広場完成記念式典◆

とき▶11月23日(水・祝)10:00～

ところ▶勝山駅前広場

※当日は、三室小学校児童、勝山南部中学校吹奏楽部、

みむろ太鼓によるアトラクションが披露されます

※縄文の里料理研究会によるバザーが催されます

(11:00～14:00)

◆テキ6の始動および記念品の配布◆

式典終了後の下記の時間に、テキ6を動かします。テキ6保存会による説明もあります。

始動時間▶12:30、13:00、13:30、14:00(計4回)

問 都市政策課(市民会館2階) ☎88-8108

エコ協通信

日本エコミュージアム 研究会全国大会に

参加して

10月22日・23日に、長野県阿智村で行われた第17回日本エコミュージアム研究会全国大会に、勝山市エコミュージアム協議会から13人が参加しました。

阿智村は、長野県の南端にある勝山市の山間部とよく似た山村です。源氏物語や枕草子などの古典文学に登場する園原の里、南信州最大の温泉郷・昼神温泉など、自然文化資源に恵まれています。

あっちうち人

1日目は、阿智村の資源を巡る8つの探訪コースが用意され、各自興味があるツアーに参加しました。それぞれの訪問先には案内人がいて、生き生きと自由に解説されています。案内人は、自分たちを「阿智村」と「熱い」にかけて



「あっちうち人」と呼んでいます。情熱をもって地域のことをしっかりと勉強されているのだと、強く印象に残りました。

地域再生の手法

2日目は、「エコミュージアムの原点を考える」というテーマでシンポジウムが行われました。エコミュージアムは、1960年代にフランスで提唱された「地域づくり」の手法で、過疎化の進行や少子高齢化が進む地方を活性化するために用いられたそうです。そして、1990年代になると日本にも取り入れられるようになりました。

平成13年度から始まった勝山市のエコミュージアムでは、地域資源を再発掘し、保存・共有、そして活用することを進めています。その中で、昔からあるものだけでなく、コミュニティビジネスにつながるような新しい資源も生み出されています。

住民が知的で創造的な暮らしを実現させていくためには、活動を持続させていくことが大切であり、また課題であると思います。

未来創造課(市役所2階)

(☎88-1115)

「勝山エコライフ」コラム



第6回 勝山の秋が変わってきていませんか?

今回は、「勝山の秋」の変化について書きたいと思います。身近な秋の姿を見直してみませんか。

■気温の変化

今年、勝山の最高気温の記録が塗り替えられました。2年続けての猛暑でした。これにより広葉樹の葉が、高温障害を受けて広範囲で枯れました。最近の紅葉は、昔に比べて色鮮やかさに欠けていませんか?もし、この気温の変化が地球温暖化によるものなら、今後、勝山の姿はさらに変わってくるかもしれません。

■農耕の変化

以前よりも水田の乾田化が進み、麦などへの転作の頻度が上がっているようです。田んぼに水を張ると、赤とんぼが多数産卵に集まることから、産卵場所に飢えているようです。また、転作された年には確実に赤とんぼが羽化しません。まだまだ赤とんぼの多い勝山ですが、それでも昔に比べたら数は減っていますか?

景観の変化
勝山をとりまく山々には、スギば

変わりつつある風景・・・将来に残せるか?

■心の変化

皆さんの心は、身近な秋の変化を捉えていらつしやいますか?皆さんが小さな変化に気付き、因果関係を考えることで、勝山らしい秋の風景が維持されます。皆さんの心が美しいと思つた勝山の秋の姿を、子どもたちにも見せてあげてくれませんか?